

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成23年4月28日(2011.4.28)

【公開番号】特開2008-308676(P2008-308676A)

【公開日】平成20年12月25日(2008.12.25)

【年通号数】公開・登録公報2008-051

【出願番号】特願2008-126825(P2008-126825)

【国際特許分類】

C 0 8 L 55/02 (2006.01)

C 0 8 L 25/12 (2006.01)

C 0 9 D 7/12 (2006.01)

C 0 9 D 201/00 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 55/02

C 0 8 L 25/12

C 0 9 D 7/12

C 0 9 D 201/00

【手続補正書】

【提出日】平成23年3月11日(2011.3.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

ゴム質重合体(ア)に少なくともシアン化ビニル系単量体(イ)と芳香族ビニル系単量体(ウ)をグラフト重合してなるゴム含有グラフト共重合体(A)10~50重量部、少なくともシアン化ビニル系単量体(イ)と芳香族ビニル系単量体(ウ)を共重合させてなるビニル系共重合体(B)5~30重量部、エポキシ基単量体(エ)と少なくともシアン化ビニル系単量体(イ)と芳香族ビニル系単量体(ウ)を共重合させてなる変性ビニル系共重合体(C)10~50重量部、およびカルボキシル末端基量が11eq/t以上のポリブチレンテレフタレート樹脂(D)10~40重量部からなり、ゴム含有グラフト共重合体(A)+ビニル系共重合体(B)+変性ビニル系共重合体(C)+ポリブチレンテレフタレート樹脂(D)=100重量部において、変性ビニル系共重合体(C)の含有量とポリブチレンテレフタレート樹脂(D)含有量との間に下記(式1)の関係があり、かつ変性ビニル系共重合体(C)以外のゴム含有グラフト共重合体(A)、ビニル系共重合体(B)およびポリブチレンテレフタレート樹脂(D)のいずれにも酸系官能基および/または酸性成分が残存しないことを特徴とする塗装成形品用熱可塑性樹脂組成物。

70 カルボキシル末端基量(eq/t)×ポリブチレンテレフタレート樹脂(D)含有量(重量%) / 変性ビニル系共重合体(C)含有量(重量%)×エポキシ基単量体(エ)の含有量(重量%) 350・・・(式1)

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明の塗装成形品用熱可塑性樹脂組成物は、ゴム質重合体(ア)に少なくともシアン

化ビニル系単量体（イ）と芳香族ビニル系単量体（ウ）をグラフト重合してなるゴム含有グラフト共重合体（A）10～50重量部、少なくともシアン化ビニル系単量体（イ）と芳香族ビニル系単量体（ウ）を共重合させてなるビニル系共重合体（B）5～30重量部、エポキシ基単量体（エ）と少なくともシアン化ビニル系単量体（イ）と芳香族ビニル系単量体（ウ）を共重合させてなる変性ビニル系共重合体（C）10～50重量部、およびカルボキシル末端基量が11eq/t以上のポリブチレンテレフタレート樹脂（D）10～40重量部からなり、ゴム含有グラフト共重合体（A）+ビニル系共重合体（B）+変性ビニル系共重合体（C）+ポリブチレンテレフタレート樹脂（D）=100重量部において、変性ビニル系共重合体（C）の含有量とポリブチレンテレフタレート樹脂（D）含有量との間に下記（式1）の関係があることを特徴とする塗装成形品用熱可塑性樹脂組成物である。

70 カルボキシル末端基量（eq/t）×ポリブチレンテレフタレート樹脂（D）含有量（重量%）/変性ビニル系共重合体（C）含有量（重量%）×エポキシ基単量体（エ）の含有量（重量%） 350・・・（式1）

本発明の塗装成形品用熱可塑性樹脂組成物の好ましい態様によれば、前記のゴム含有グラフト共重合体（A）は、ゴム質重合体（ア）5～60重量部に、シアン化ビニル系単量体（イ）1～55重量%、芳香族ビニル系単量体（ウ）20～85重量%および共重合可能な他のビニル系単量体（オ）0～79重量%とからなる単量体混合物95～40重量部をグラフト重合してなるゴム含有グラフト共重合体である。